

1グループホームひかり

(別紙6)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0972400261		
法人名	医療法人翼望会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	栃木県佐野市葛生東1-15-9 (電話) 0283-84-1101		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年7月8日	評価確定日	平成20年8月5日

【情報提供票より】(平成20年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,800 円	その他の経費(月額)	・水道光熱費—15,000円 ・日用品・共益費—10,200円 ・理美容代、おむつ代、その他個人的な費用—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年6月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1		名	要介護2		2 名	
要介護3		2 名	要介護4		5 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	85 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人翼望会 長島病院、佐野医師会病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、市役所支所(旧役場)のすぐ近くにある。敷地続きで同法人の介護老人保健施設があり、道路を挟んで協力医療機関でもある母体法人の医院がある。母体法人が往診等をしている中で把握したニーズから、訪問看護や居宅介護支援事業を行うようになり、平成16年に当ホームを立ち上げ、翌年には介護老人保健施設を立ち上げている。運営推進会議に全家族の参加をお願いして参加が難しくとも会議録を送付したり、年2回の家族交流会を開催するなど家族との接点づくりに努めている。ほとんどの職員が認知症介護実践研修を修了しており、また今年度は認知症介護指導者養成研修に職員を派遣するなど計画的に人材の育成をしている。職員は、外出や入浴など入居者個々の希望をよく聞き、希望にそった支援に努めている。ロッカーを利用した職員への必要事項の伝達方法やヒヤリハットの書き方などを工夫しており、職員間で情報・手法を共有しながらチームケアに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は運営推進会議にも報告し、改善策について検討している。「次につながる記録の書き方」など、できるところから改善を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、評価票を職員に見てもらい、ミニカンファレンスなどで職員の意見を聞きながら管理者がまとめ、職員に確認してもらうという流れで実施した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、入居者家族、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらい、ホームの状況を報告しホームの課題等について相談している。家族には代表者のほか全家族に出席を呼びかけ、毎回1~2名が参加し、家族の思いを話してもらう場もなっている。運営推進会議メンバー及び全家族に会議録を配布している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用料の支払いや年2回家族交流会など家族がホームを訪れる機会をつくり、リビングには個人別のアルバムをゆっくり見ることができるコーナーもある。利用料請求時に手紙を添えたり、年3~4回広報誌を発行したり、必要に応じて電話で連絡を取っている。預かり金は家族がホームに来た時に確認してもらっている。職員の異動等があった時には広報誌で紹介するようにしている。職員は、家族がホームを訪れた際に意見等を聞くようにしている。ホーム内に意見箱を置き、苦情受付機関である国保連のポスターを掲示したり、家族にアンケートをお願いしたりと家族の声を運営に活かすための努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の際に近所の方と声を掛け合ったり、野菜や花をもらったり、といった近所づきあいをしている。また、祭りや豆まきなど地域の行事に出掛けている。ボランティアとして地域の方が訪れたり、保育園や小・中学校との交流もある。法人として自治会に加入しているが自治会活動には参加していない。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針（理念）として「その人らしく暮らす家」とし、また基本構成として「尊厳のある暮らし」「認知症にともなう障害の緩和」「認知症の人の自立支援」「安心して暮らせる」を掲げている。	○	ホームとしては、今後地域との関わり方について力を入れていく考えであり、理念についても地域との関係性を踏まえた見直しを検討している。当ホームとしての地域との関わり方について職員間のイメージを共有する意味でも検討に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践のために日々の暮らしの中で、また朝礼や昼のミニカンファレンス等で入居者の情報・課題を共有しながら日々の支援に取り組んでいる。玄関には、毛筆で「その人らしく暮らす」と書き、押し花絵をあしらった大きな額が掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に近所の方と声を掛け合ったり、野菜や花をもらったり、といった近所づきあいをしている。また、祭りや豆まきなど地域の行事に出掛けている。ボランティアとして地域の方が訪れたり、保育園や小・中学校との交流もある。法人として自治会に加入しているが自治会活動には参加していない。	○	ホーム行事としてバザーを企画して地域の方に来てもらうことなども検討したりしている。ホームとして課題意識を持ち取り組んでいることから、運営推進会議の場なども活用しながら今後も様々な働きかけや取り組みをしていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議にも報告し、改善策について検討している。「次につながる記録の書き方」など、できるところから改善を図っている。今回の自己評価は、評価票を職員に見てもらい、ミニカンファレンスなどで職員の意見を聞きながら管理者がまとめ、職員に確認してもらうという流れで実施した。		

グループホームひかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらい、ホームの状況を報告しホームの課題等について相談している。家族には代表者のほか全家族に出席を呼びかけ、毎回1~2名が参加し、家族の思いを話してもらう場にもなっている。運営推進会議メンバー及び全家族に会議録を配布している。	○	地域との関係を深めていくことに課題意識を持って取り組んでいることから、自治会の方や地域の中で今後関係を持っていきたいと考える機関・人に参加を呼びかけてみるなど、運営推進会議の場を更に活用していくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故が起きた時の報告などの他にはあまり行き来する機会多くないが、至近に市役所支所（旧役場）があり、グループホーム協会の広報誌が発行された時などは持って行き、置いてもらっている。	○	市役所支所（旧役場）が至近にある立地特性を活かして、市の職員と行き来したり、運営推進会議への参加をお願いしてみるなど、更に連携を深めていくことにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いや年2回家族交流会など家族がホームを訪れる機会をつくり、リビングには個人別のアルバムをゆっくり見ることができるコーナーもある。利用料請求時に手紙を添えたり、年3~4回広報誌を発行したり、必要に応じて電話で連絡を取っている。預かり金は家族がホームに来た時に確認してもらっている。職員の異動等があった時には広報誌で紹介するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族がホームを訪れた際に意見等を聞くようにしている。全家族に運営推進会議の参加を呼びかけて会議録を送付したり、また年2回家族交流会を開催するなど家族との接点づくりにも努めている。ホーム内に意見箱を置き、苦情受付機関である国保連のポスターを掲示したり、家族にアンケートをお願いしたりと家族の声を運営に活かすための努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、離職する時には、入居者個々に挨拶をし、必要に応じて管理者等が入居者に対するフォローをしている。敷地続きの老人保健施設とは運動会や納涼祭など交流の機会があり、また勤務帰りにホームに寄る職員もいるなど異動後も交流が続いている。離職した職員も遊びに来ている。		

グループホームひかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほとんどの職員が認知症介護実践研修を修了しており、その他の外部研修も参加予定者も含めて年間計画するなど積極的に取り組んでいる。外部研修受講後は資料を回覧したり報告書を作成して共有に努めている。法人で開催する研修にも参加している。職員会議の際にも勉強会的な時間を持っているが、管理者は内部の勉強会を更に充実させたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び全国のグループホーム協会に加入している。新しくできたホームの内覧会に出掛けたり、管理者が近隣のホームからの電話での相談に応じたりしているが、職員間の行き来などは今のところない。	○	管理者、職員は外部研修に積極的に出掛けており、ネットワークをそれぞれにつくっていると思われるので、それを活かしたホームとしてのネットワークづくりを検討してみることも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ事前に本人・家族にホームに来てもらい、皆さんと一緒にお茶を飲んでもらったりしながら雰囲気をみてもらうように努めている。病院や施設からの入居も多く、本人がホームに来ることが難しい時には、管理者（兼計画作成担当者）が訪問して話を聞いている。入居当初は、声のかけ方や落ち着かなくなったときの対応方法などを家族に聞いたりしながら徐々に馴染めるように配慮している。	○	デイサービスの感覚でホームに遊びに来てもらいながら場の雰囲気に徐々に馴染んでもらうことも考えているので、更なる配慮・工夫に努めていくことにも期待したい。
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら、食事づくり・片付けなど一緒に行っている。職員は、入居者の昔からの経験に基づいた料理・季節ごとの行事・畑のことなどを教えてもらっている。		

グループホームひかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話の中で、行ってみたい場所など入居者の希望や思いを把握するよう努め、またその実現に努めている。困難な場合には、家族から聞いた生活歴等を参考にしながら職員間で本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞いた上で、入居者ごとの担当職員が全職員からメモで意見をもらい、計画作成担当者（兼管理者）・担当職員・その日の勤務職員でカンファレンスを開き検討している。医師の指示などがある場合には、それを反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居当初は2週間の暫定の計画を作成し、その後3か月・6か月と目標期間を定め、定期的に介護計画の見直しをしている。その他に、状態の変化があった時は随時見直しをしている。また、昼のカンファレンスや職員会議、あるいは申し送りノート等で職員間での情報の共有や検討をして、随時、ケアの方法の変更等もしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者個々の要望を聞き、職員と一緒に知り合いの方に会いに行ったり、昔馴染みの場所に出掛けたりと柔軟な支援に努めている。医療連携体制加算の指定を受けており、看護職である管理者の他、母体法人から週1回看護師が訪問してくれる体制になっている。		

グループホームひかり


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	道路を挟んで協力医療機関でもある母体法人の医院があり、入居の際に主治医を変える方が多い。同医院では歯科受診もできる。受診には職員が付き添い、家族に結果を報告している。眼科等を受診する時には家族が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針をつくっており、入居時に家族に説明している。医療依存度が高くなった時など、ホームでの対応の限界も説明している。マニュアルも作成しているが、現在までに看取りの例はない。年月の経過とともに介助の度合いも高まっている。	○	管理者は、全職員で定期的にマニュアルの内容を確認していく必要性も感じている。内部勉強会の充実も検討しているので、今後も折にふれて職員間で対応方針・方法の検討を重ねていくことにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームとしての個人情報保護方針を定めており、ホーム内に掲示してあった。個人記録等は事務室で管理している。広報誌への写真掲載なども家族に確認している。各居室の扉についている明かり取り窓にはカーテンをつけている。基本的には入居者を「さん」づけで呼んでいるが、本人が分かりやすい呼び方をする場合には家族に了解をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、起床時間など、これまでの習慣等に合わせて一律な対応はしていない。入居者との会話の中で行きたい場所など希望を聞いたり、「そろそろ髪を切りましょうか」と本人の選択の場面をつくりながら、一人ひとりであった支援ができるよう努めている。		

グループホームひかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に畑で収穫した野菜が食卓にのったり、店屋物をとったり、外出に出掛けたりもしている。入居者のできることに配慮しながら、調理、後片付け、茶わん拭き、テーブル拭きなどを入居者と一緒に行っている。職員も必要に応じて入居者の介助をしながら、一緒に同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	16:00からの時間帯と夕食後の時間帯での入浴の支援が多いが、希望によっては午前中に入浴支援をしたりしている。毎日入浴する方もいる。前回の入浴から2~3日空いている方から声をかけるようにしており、入浴の苦手な方には誘い方を工夫しているが、無理強いはしないようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の場面や掃除、畑づくり、花の世話など、入居者のできることや自主性を大切にしながら支援している。また、ちぎり絵・書道・裁縫・散歩・買い物・ドライブなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなど外に出る機会を積極的につくっている。知人に会いに行ったり、実家などの昔馴染みの場所に出掛けたりと、個々の要望にそった外出の支援にも努めている。ホームとしては更に一人ひとり、その時の要望にそった外出を支援していきたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や掃き出し窓には鍵を掛けておらず、敷地内では自由に外に出ることができるが、門扉には鍵がかかっている。	○	外出傾向の把握や外出の察知、近所の理解を深めていくことを検討している。地域の方に寄ってもらえる環境づくり、そのことによる地域との連携といった点でも今後も門扉の鍵についての検討を重ねていくことを期待したい。

グループホームひかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練をすることとなっているが、昨年は消防設備の点検のみの実施であった。救命救急講習を全職員が受講しており、事務室には大きく分かりやすく緊急時の対応表が貼ってあった。	○	隣地に同法人の介護老人保健施設がある特性も活かしつつ、夜間想定なども取り入れて定期的に訓練を実施していくことに期待したい。また、運営推進会議でも相談しながら、地域との連携について具体的に検討していくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みにも配慮しながら職員が1か月の献立を作り、1週間分ごとに法人の管理栄養士にチェックしてもらっている。食事摂取量を確認・記録している。水分摂取については記録はしていないが、テーブルに水をいれたピッチャーを置くなど適切に水分が摂取できるように配慮している。体重測定を毎月行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問日が七夕の翌日だったこともあり、ホールには入居者が願いを込めた短冊を付けた竹飾りがあった。食堂スペースの他にソファやイス、ベンチを置き、畳スペースもあり、入居者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。音、光、換気なども適切に配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや冷蔵庫を持ってきている方もいるが、あまり物のない居室が多かった。壁のコルクボードに写真などを飾っている。ベッドはホームで準備しているが、自宅での生活を踏まえて布団を敷いて休む方もいる。日中は共用スペースで過ごす入居者が多い。	○	理念である「その人らしく暮らす家」の実現という意味でも、今後も家族と相談しながら馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせる居室づくりに取り組んでいくことに期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。